

桜川文芸

俳句

【桜川市岩瀬「萩」俳句会】
職退きてより甚平のよく似合ふ

孫と風呂語り尽きざり敗戦忌
鈴木たか子

花火果て崩れかけたる思考力
小林 啓治

玉虫の輝きのまま墜ちにけり
小林 フク

茂る木は鳥の遊び場観音寺
三代みちよ

水槽にメダカ七匹競泳す
渡辺 いし

【茂山俳句会】
聞き流すことも覚へて冷素麺
入山ひろ子

在りし日の師の面影や盆の月
鈴木ノブ子

糟糠の妻とはなれず茄子を切る
田崎 信子

合はす手のしづかにほぐる蓮かな
植田 祥雲

入院の骨の上なる夏蒲団
竹林 てる

貧しきは貧しきままに更衣
宮本 芳江

筑波嶺に雲の片寄す花木樨
松崎 いま

吉原 秀子

風鈴の位置替へてきく別の音

健康を玉と尊び酷暑かな
井坂 洋子

三代の句碑に苔咲く羽黒山
鶴見 菊江

足音で育つトマトの脇芽摘む
海老沢静夫

街騒を抜けて宮居の緑蔭に
服部 海童

気遣ひも嬉しく聞くとや炎天下
宮田 文子

花萼に足投げ出して草履編む
大関 くに

蛞蝓の姿は見ずに銀の道
今井 繁子

忘れ杖照らす札所の夏の月
海老沢幸子

【一般投稿】
甲子園めざす鉄路や雲の峰
飯山 昭

木下 善信

短歌

【真壁短歌会】

祇園会に渡御の神輿に戦国時
そのまゝに供奉す真壁の人等

岡村 次雄

仕事から和服が好きにて作りしも
着る機会なく箆筒に眠る

朝の庭眺めて居ればうぐいすが
声高く鳴けり梅雨にはめずらし

紫陽花の陰に咲きいるドクダミの
可憐に見えて抜く手休める

【一般投稿】
七夜月螢光灯に老化あり
明らかなる光り今は螢火

朝の戸を開けば青き田の面を
渡りて霧の風流れ入る

大山 しげ

木下 善信

【さくら俚謡会】
恋の古傷ゆらした秋へ
女は黙って石を蹴る

稲葉 建正

松の小枝にまんまる月が
熱いふたりをのぞく宵

つく志輝美

執った政権小脇に抱え
笑顔すいすい赤とんぼ

田 哲人

有料広告掲載募集中!

お問い合わせは、秘書広報課へ ☎58-5111・75-3111、内線1268

広報 さくらがわ

有料広告掲載募集中!

お問い合わせは、秘書広報課へ ☎58-5111・75-3111、内線1268

広報 さくらがわ